



◎吏道刷新に關する木戸内務大臣の訓示

内務省に於ては二月二十七日午前九時三十分本省第一會議室に全廳員を參集せしめ木戸内務大臣は吏道刷新に關する訓示をされた其の要旨左の如し。

◇時局は愈々重大でこの難局を打開し國運の躍進を圖るが爲には國家に奉仕する官吏としても更に相共に考ふべき所、爲すべき處極めて多きを思ふ、皇道に率由すと言ひまた萬民輔翼といふことは要するに各自が大御心を體得することである、特に職を公に奉ずる者は民を赤子として慈み給ふ大御心を心として之を行政の上に具現することがその要諦で平素深くその行止を慎み品位を保ち智德を磨きもつ

て一般の儀表とならなければならぬが現下の如く行政事務頗に複雜を來し國民生活に影響する所極めて大なるものある秋やゝもすれば官僚獨善といふが如き聲を耳にするに至るの恐れがあるので職を官に奉ずるものは特にこの點に留意し常に謙虚な心持をもつて民衆に對すべきであり事を行ふに當りては迅速適切衆庶に對しては懇切鄭寧苟も世の非難を招くが如きなからんことを期さなければならぬ。

◇然し吾々が行政を行ふに當つては素より國家百年の大計を基としなければならぬから場合によつては法規の示す所に従ひ國民の自由に制限を加ふるのやむなきに至ることあるべきは當然である、要是寛嚴宜しきを制し徒らに不當なる制壓を加へざると同時に徒らに阿諛迎合するが如きことがあつてはならぬ。

◇官吏がその職務を執るに當つてその所見を異にすることは止むを得ないが、これがため相互固執排擠を事とし萬一官界に相剋摩擦を生ずるが如きことがあつては必ずや事務の澁滯を生じ遂に國家の大事を誤るが如きことに立至る

から私心を去り利害、感情を捨て克く上下の秩序を守りつゝその意見、論議の盡すべきはこれを盡し小異を捨て大同

につき和衷協同相倚り相助けて奉公の誠を竭さなければならぬ、しかしてこれが眞意を誤り職務に對する生氣と熱意とを缺き無爲徒らに安きを求むるが如きことは採らざる所である、事變以來銃後の行政事務は俄に複雑困難となり、これが遂行の任に當る官吏の責務いよ／＼重大を加へ來つたのである、殊に内務省としてはその擔當するところ銃後の國民生活に至大の關係を有するもの多きに鑑み職を内務省に奉ずる者はその使命遂行上各々その心構において一段と深き省察を加へて頂きたい。

◇要するに公器に參與する諸君におかれては克く時局の眞義に徹し一命を君國に捧げた幾多の英靈を偲び、また困苦に耐へて轉戦しつつある出征將兵の上を思ひ益々その操守を嚴にし精勵恪勤、和衷協同、總力を擧げて聖業輔翼の誠を效されんことを望む次第である。

◎土木部課長の異動

二月十五日諱岡縣土木部長關谷新造氏死去したる爲め宮城縣土木部長大石巖氏其の後任に任せられ、宮城縣土木部長には岡山縣土木課長飯島馨之助氏、岡山縣土木課長には埼玉縣土木課長竹内常八氏、埼玉縣土木課長には石川縣土木課長三宅發造氏、石川縣土木課長には鳥取縣土木課長丸山悅三氏が轉任せられた。

◎京都市土木局長更迭

本年一月十七日京都市土木局長高田景氏辭職し後任として元内務省下關土木出張所長牧野雅樂之丞氏が就任せられた。

◎道路功績者の表彰

本會道路功績者表彰規程に依り左の通表彰し關係地方廳に夫れ／＼傳達方を依頼した。

表彰狀

山形縣最上郡安樂城村

表彰狀三ツ組木杯

同

神保秋藏

同 南置賜郡白布高湯道路愛護會

富山縣西鰐波郡南蟹谷村

奈良縣吉野郡黒瀧村道路愛護會

村會議員

金岡卯太郎

表彰狀一等功績章三ツ組木杯

山形縣道路工手 戸津興作

村書記

國本嘉瑞

同 柿崎榮吉

村書記

國本嘉瑞

表彰狀二等功績章單杯

富山縣道路工夫 矢谷興三松

村書記

國本嘉瑞

同 小俣藤藏

村書記

國本嘉瑞

德島縣修路工夫 片山展央

村書記

國本嘉瑞

同 山川岩吉

村書記

國本嘉瑞

南龜藏

村書記

國本嘉瑞

羽間政吉

村書記

國本嘉瑞

平尾唯太郎

村書記

國本嘉瑞

同 岡田兵吉

村書記

國本嘉瑞

山形縣道路工手 鈴木庭藏

村書記

國本嘉瑞

◎内務省土木試驗所談話會

昭和十四年三月中に開催したる土木試驗所談話會に於ける話題は次の通り。

第一八六回技術談話會話題（昭一四一四）

時日 昭和一四年三月二十四日（第四金曜）午後二——四時

場所 本鄉區駒込上富士前町二六 内務省土木試驗所講堂

1、鐵筋コンクリート、ロツカーに関する試験

報告 （四〇分） 一木保夫

2、各種安定材の混和に依る土壤スタビリゼー

ションに關する實驗室試験報告（第1報）

（四〇分） 福島彌六

以上

生・興亞院技術部の誕生を分析する)

◎土木出張所長會議開會

四月六、七日の兩日に亘り内務省第一會議室に於て十四年度豫算の執行其他に關し土木出張所長會議を開催することに決定。同時に土木事務官會議も併行せられることに決定した。

◎近刊圖書雑誌

- 都市問題（第二八卷二號、三號）
- 町田保氏＝防空と都市計畫（3）
- 水利と土木（第一一卷三號）
- 三田學會雜誌（第三三卷一號、三號）
- 港灣（第一七卷三號）
- 法律時報（第一一卷三號）
- 駕工（第一五卷一號）
(猪山了吉氏＝東京山手方面緩和道路計畫に就いて)
- 技術日本（第一九四號）
(根津健次郎氏＝技術の社會性と興亞院技術部問題ST)
- 觀光聯盟情報（第三卷二號）
- 電氣通信學會雜誌（第一九一號）
- 土木（第四九號）(池本泰兒氏＝興亞土木建設と技術者)
- 警察協會雜誌（第四六六號）
- 汎交通（二月號）(帝都高速度鐵道網の文献に就いて)
- セメント界彙報（第三七二號）
- 土木建築工事畫報（第一五卷三號）
- 自警（三月號）
- 清和（第六卷二號）
- 鐵道軌道經營資料（第一二一卷二號）
- 土木試驗所報告（第四四號）
(西川榮三、松本榮兩氏＝瀝青鋪裝切取供試體の試驗結果より見たるその性質の比較)
- 土木學會誌（第二五卷三號）(成瀬藤武氏＝桁橋應力輕減法、山田二三男氏＝軌道材料の電蝕狀態に就て)
- 石油時報（三月號）